

もはぎら

平成二十五年は、第二祖日向聖人の七百遠忌です

題字・持田日男貫首猥下

第23号

発行日 平成22年7月1日

発行所 千葉県茂原市茂原 1201
日蓮宗東身延 本山藻原寺
発行責任者 総務執事 増田 寶泉
TEL0475-22-3153

- 橋本上人が復帰しました。(H21.11/7)
- 山務員寮を改築しました。(5/30)
- 鳩山内閣が解散し、菅内閣が誕生しました。(6/4)
- FIFA ワールドカップが開催、日本は予選リーグを2位で突破(6/24)
- その日本代表がパラグアイに延長PKで惜しくも敗れました。(6/29)
- 7月11日に参議院選挙が行われます。

掲示板



藻原寺 華経殿にて

午後三時まで

午前九時より

七月二十六日(月)

焙烙灸

ほうろくきゅう

貫首様のお言葉



日向聖人七百遠忌報恩

記念事業について(三)

来る平成二十五年九月三日に門祖日向聖人の七百遠忌を迎えます。どのような報恩記念事業を行うかについては、平成十六年七月一日発行の「もばら」第七号と平成二十年四月六日発行の「もばら」第十八号に掲載して発表しておりますが、より具体化してきましたので、お知らせ致したいと思います。川崎普照先生にお願いました。日蓮大聖人の銅像原型は昨年(平成二十一年)の春には一応メートルのもの完成し、四月六日にはアトリエを訪問して打合せを致しました。いろいろと注文を致しまして手直しをして頂き、七月六日に総代一同と再度アトリエを訪問して確認しました。その後本年の春には二メートルのものが出来上がりました。それを原型として二十メートルに拡大するそうです。台座につきましては翠雲堂の設計

部と度重なる打合せをした結果、外観等の意匠についてはほぼ決まり、重量計算等を行って本設計をする前段階にきております。

建設地につきましては華経殿の裏の茂原山上を予定していますが、現在公園の一部になっていきますので、市担当者と交渉し、寺有地の一部と交換する形をとることとして了解しました。本年八月中旬に市の都市計画審議会にかけ、十月に県の都市計画審議会にかけて公園用地から解除することになります。その後十一月に公示されて決定されます。

何れにしても建設費等の準備が出来ませんので、これから資金の寄附勧募を行わなければ着工することは出来ません。度重なる総代会を開いてほぼ成案が出来上がりましたので、六月六日に行わ

←日蓮大聖人銅像2m粘土原型



れました世話人会総会の後に銅像建立の説明会を開催しご協力をお願い致しました。

これからの日程としましては、七月三十一日の土曜日に記念事業勸財委員会を開催してご理解を頂いた上、八月二十二日の日曜日に日向聖人七百遠忌報恩記念事業奉賛会の発会式を挙行し、九月三日の日向聖人の第六百九十七回のご命日を期して勧募態勢に入りたいと思っております。

総事業費は一応七億円に押さええることとして、資金勧募に踏み切ります。七億円という膨大な資金勧募は並大抵のことでは出来ません。広く大勢の方々にお呼びかけしてご支援を仰ぐ所存でございますが、檀信徒の方々からは三億円の資金を寄附して頂きたいと考えております。完成まで五年はかかると思っておりますので、勧募期間も五年間と思っておりますが、まず三年間で資金の用途を立てたいものだと思っております。これは大変なことだと思っております。約九百軒のお檀家ですから、一軒三十万円余となります。一口三十万円として千口の寄附勧募を致したいと思っております。現在の経済状況の中で、

協力したくても、ご協力して頂けないお家が多々在ると存じます。この際無理しても協力してやろうという方々が二口、三口の寄附をなさって下さることを心から望んでおります。

特にお寺を支える中心なお檀家が、二口、三口、それ以上のご寄付をして頂ければ有り難いと心の中で考えております。

藻原寺に寺有財産が潤沢ならば皆さんのご負担を軽くすることが出来るのですが、今のところ現状を維持して一応恥ずかしくないようなお寺の体裁を整えることで精一杯であります。

今後の本山の経営を楽にするには、ここで無理をしても壮大な銅像を建立して、参詣の方々を増やし、本山に憐れを持って頂き、檀信徒を増やしていく以外にありません。どうか檀信徒の皆様には将来の礎となつて頂くようご協力をお願いいたす次第であります。

尚不足額の四億円については、藻原寺と住職の拠出金で一億円、他の寺院より勧募金一億円、台座中の納骨堂入檀金で二億円と考えております。どうか宜しくご協力の程お願い申し上げます。

精霊棚かざり方



- | | | |
|-------|--------------|---------|
| ①お曼茶羅 | ②日蓮聖人像 | ③お位牌 |
| ④お茶 | ⑤ご飯 | ⑥供物 |
| ⑦水の実 | ⑧麗水盤 (水を入れる) | ⑨きゅうりの馬 |
| ⑩ナスの牛 | ⑪花 | ⑫香炉 |
| ⑬灯明 | ⑭リン | ⑮マコモ |
| ⑯青竹 | ⑰ホオズキ | |

お盆をむかえるにあたって

曇り空が続き梅雨の深まりを感じる今日この頃、今年も七月となりお盆の時期が近づいてまいりました。過去のもぼら号に幾度かお盆についての説明が掲載されており今更とは思いますが、お盆をむかえるにあたって改めて説明させていただきます。

お盆とは神道における先祖供養の儀式や神事が仏教行事の夏安居の「盂蘭盆」(うらぼん)と習合したものとされています。

伝統的には旧暦の七月十五日に行われ、旧盆と言われております。明治六年以降の新暦採用から

●新暦七月十五日

(もしくは前後の土日)

●新暦八月十五日

(月遅れの盆)

●その他

(八月一日など)

地方によって行う日や月が様々になりました。又、行事の内容や風習も地方それぞれに様々で行っていて

形式は統一されていません。

お盆は祖先の霊が子孫のもとを訪れて交流する行事です。先祖をお迎える為の棚を精霊棚(しよりょうだな)といいます。お盆の期間中に僧侶がお檀家様の自宅へ伺い、精霊棚の前で先祖供養の為にお経を唱える事を棚経といいます。

どうしてお盆に胡瓜で馬を、茄子で牛を作るのかといいますと、この二つが先祖の霊魂があの世とこの世を行き来する為の乗り物だからです。これを精霊馬といいます。胡瓜は足の速い馬に見立て、あの世から早く家に戻ってきていただく為に、茄子は歩みの遅い牛に見立て、この世からあの世に帰るのが少しでも遅く長くいてほしい。また、精霊棚に供えた物を牛に乗せて持ち帰ってもらう為、胡瓜の馬と茄子の牛にはそれぞれ願いが込められています。

もう少し詳しく説明したいところですが、今回はここまでとさせていただきます。尚、精霊棚の飾り方の例を載せましたので棚作りの参考にしてみてください。

行事

除夜の鐘 (十二月三十一日)
平成二十二年を目前に除夜の鐘が始まり、貫首様を導師に法味を言上されました。貫首様、総務、総代、世話人に続いて並ばれた一般の人達が鐘を突き、その年の厄を払いました。

新年祝祷会 (一月一日)

新年を迎えた午前0時を合図にお経が始まり、初詣人達に本年の一番加持御祈禱が行われ身体健全と家内安全を祈願しました。尚、今年より大堂と華経殿の御祈願祈禱が一日から三日までとなりました。

お頭講会 (一月十一日)

藻原門下の寺院・檀信徒がそろって日蓮大聖人に新年のご挨拶の法会を営みました。法要は、持田貫首様を導師に、縁起朗読を増田総務が読上げ、又、献茶を裏千家鶴沢宗良様、古事に則つての舞は、師匠 松本博子様、長谷川さやか様のお二人により「けんばやし」が奉納されました。その後、曳馬式が行われ、舎人に引き連れられた栗鹿毛のお馬に貫首様、来賓の諸上人、一般参加の子供達が好物の人参を食べさせました。

節分追儺式(二月三日)

午後三時、追儺会の法要が厳修され、献茶は大原亘様、福豆は佐々木勝彦様、誓詞言上は本田和義様がそれぞれ務められました。そして、貫首様の「福は内 福は内」の発声に続いて堂内に福豆がまかれました。法要終了後、大堂外に設けられた特設舞台上から豆まきが始まり、今年の福をつかもうと多くの人々の歓声と、和太鼓の轟音が境内に響き渡りました。

成家・伏見稲荷大祭(二月十三日)

悪天候の為、彼岸橋上から法要を行ないました。野菜、果物、赤飯、鯛焼きと油揚げをお供えし、山田哥栄様等参列者の方が商売繁盛など祈願をしました。

花祭り(四月四日)

三月末より続いた暖かさによって茂原公園の桜も満開の中、今年は十八名の参加者による稚児行列、花祭り法要を厳修しました。祭文は金坂奈桜さん、岩瀬真子さん。献灯は神明美優さん、藤田実季さん。献花は植松あさ香さんと樋口莉菜さん。岩瀬桃子さんがお守りを、斎藤瑞姫さんが参加賞をそれぞれ貫首様より授与されました。また、参詣者の方々にも灌仏して

いただく為、四月八日まで花見堂が入り口に設けられ、花見に来られた多くの方がお釈迦様に灌仏しました。

お題目初唱会(五月八日)
今年で九回目となる初唱会。



危ぶまれていた天候にも恵まれ晴天の下、時代行列が始まりました。今年は今迄で一番多い約二百人の方に参列していただきました。金棒持ちを先頭に太鼓や笛を鳴らしながら藻原寺を始め近隣寺院の万灯講が纏をふり、それから本久寺檀信徒、玄題旗、近隣寺院の高張提灯の順に歩き、その次に千葉西部の雅楽部「雅成会」が雅楽を奏でました。古代衣装に身を包み家来や町人に扮した人々、その後を日向上人、日秀上人、墨田五郎時忠公役の墨田隆夫さんが続き、日蓮聖人役の持田貫首様と当山開基斎藤遠江守兼綱公の役を務める当山総代の安藤轟勇さんが馬に跨り茂原小学校から藻原寺までの道程を歩きました。時代行列の到着後、貫首様を導師に初唱会の法要が厳修しました。法要終了後に仏殿にて清宴が行われました。

御更衣式(六月一日)

大堂の窓・扉に暗幕が張られ、厳肅の中、午後六時より持田貫首様を導師に御更衣式を厳修しました。お経が始まり、次々に大堂の明かりが消え、密やかに日蓮聖人の御衣替えが行われました。

奉納

- 寺田 善行様 華経殿鯛口
- 高梨 富子様 当直用寝具一式
- 早田 恵江様 導師用座布団
- 松本哲也様 木鉦用下敷き
- 足袋沢山 足袋沢山

行事案内

- ホウロク灸 七月二十六日(月) 九時
- 孟蘭盆施餓鬼会 八月十五日(日) 九時
- 銅像建立奉賛会発会式 八月二十二日(日) 十五時
- 川施餓鬼 八月二十四日(火) 十時
- 門祖講 九月三日(金)
- 秋季彼岸会 九月二十三日(木) 十時
- 宗祖御更衣式 十月一日(金) 十八時
- 向尊殿大祭 十月三日(日) 十一時
- 観音堂秋季大祭 十月十七日(日) 十時半
- 御会式 十一月十三日(土) 十七時